

退職者挨拶

経営学部



スポーツマネジメント学科
教授 趙 鋪吉 先生

私は2000年4月、地域発展学部の新設と同時に助教授として着任しました。日本での留学生生活を終えて韓国に帰国してから6年ぶりの再来日で、40歳という節目の年でした。その後、地域発展学部は少子化のおおりに受けて、総合政策学部へ改組され、経営学部と統合されました。いま地方創生が時代のキーワードになっていることを考えるともったいない気もしますが、経営学部の学生数が増えていることを考えるとそれによかったと思います。在職中は学部再編以外にも、初めての大学評価、東日本大震災、コロナ禍、LRTの運行などいろいろなことがありましたが、後援会の皆様のご支援と教職員の方々の支え、また学生達にも恵まれて、この3月無事に定年退職を迎えることが出来ました。本当にありがとうございました。

人間文化学部



心理コミュニケーション学科
教授 木村 克彦 先生

長い昭和が終わり、平成へと改まった繋ぎ目の年に、産声を挙げた作新学院大学。三十有余年、奉職させていただきました。就職にあたり、作新高校時代の担任から声をかけていただき、船田昌子先生、船田周先生に面接をお願いし(ついでにちらし寿司をご馳走になり)、即座に就職が決まるという幸運に恵まれました。また、大学院の指導教授から「作新で定年まで勤めあげろ」と言われておりましたので、約束を果たし、ホッとしております。落ち着きましたら、両恩師の墓前にも報告に参ります。現在、研究室を引き払うべく掃除をしていたところ、引き出しから秘蔵のピンクレディの下敷きが出てまいりました。長かった時の流れをかみしめています。引き続き、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。



発達教育学科
教授 牧 裕夫 先生

2013年4月に着任いたしました。前任地の四国にて、公募希望の法人事務局、厳しめなU氏から突然の電話から始まり、今日まで感謝です。面接の為宇都宮駅Mファストフード店前からバスに乗り、都会の風情が徐々に消えてゆき多少不安がよぎる中、正門を過ぎ管理棟前、現在図書館に勤務されている親しみあるO職員が迎えてくださり、しっかりした職場と安心しました。その後、着任後2年目か、それでもまだ不安な中のある日、当時の総務O課長、教務Y課長が、研究室にこられ「駐車場の牧さんの車がパンクしている・・」。その後(小職も関わりましたが・・)お二人も補助タイヤへの交換を手際よく助けて下さいました。大学院修了後40年位、作新を含め職業人生を集約するような素敵な体験でした。結果、ご迷惑をかけたばかりで申し訳ありません。皆様のご健勝、ご活躍を祈念いたします。ありがとうございました。



発達教育学科
特任教授 木村 直人 先生

入職した2015年度は、人間文化学科・初等教育専攻1期生が卒業する年度でしたので、教職実践センターは授業や教育実習だけでなく、教員採用試験に向けてどのようなサポートが出来るか試行錯誤の毎日でしたが、合格者が出てホッとしました。その後、同専攻は発達教育学科に昇格し、センターの人員が増え体制も整うに従い、今や合格者数が2桁となるなど隔世の感がいたします。また、18歳選挙権の成立・施行に伴い、大学における主権者教育が急務となり、休講中の「現代社会の諸問題B」を、主権者教育を実施する教科としてリニューアルし、消費・環境等の現代的課題をテーマに取り上げ、関係機関・専門家と協力しながら展開してきました。退職後も、この貴重な経験を活かし、主権者教育の研究と実践を続けていく予定です。10年間大変お世話になりました。



発達教育学科
特任教授 村松 和彦 先生

Fiery the dark angel fell, Deep thunder rolled around their shores, burning with the fires of Orc. I've seen things you people wouldn't believe. Attack ships on fire off the shoulder of Orion. I watched C-beams glitter in the dark near the Tannhäuser Gate. All those moments will be lost in time, like tears in rain.

INFORMATION

令和6年度学位記授与式のご案内

2025年3月16日(日)

午前10時(受付:午前9時~)



編集・発行 作新学院大学 後援会報事務局(総務課内)
2025.2 〒321-3295 栃木県宇都宮市竹下町908
Vol.65 TEL 028-667-7111 FAX 028-667-7110



作大・作短
後援会公式HP



作新学院大学
HP



作大・作短
公式Twitter



SAKU



あなたの未来が咲くマガジン

作新学院大学後援会報

学問は、就活か。

失敗なんかしていない。

軸

ガクチカこそ強みだ。
未来に繋がる気づきの瞬間。

さ、やってやろう。

「がんばります」より
「がんばりました」を聞きたい。

リベラルアーツを考える。

受け身の学びから主体的学びへ。

ハードルは高ければ高いほど、くぐりやすさ。

国内か、海外か、どこでもか。
ビジョンの明確化。

人生で一度しかない新卒の就活を楽しむ。いっしょに。

令和6年度 着任教員紹介



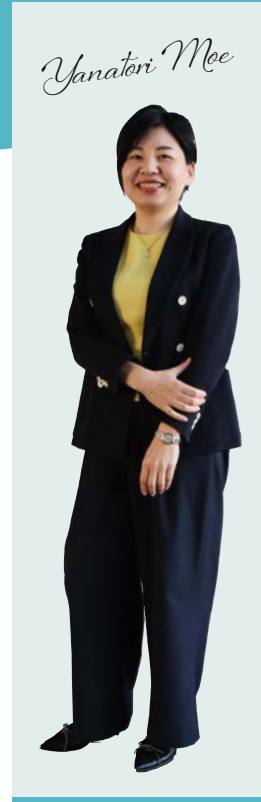
経営学部
経営学科
准教授 趙 美慧



経営学部
経営学科
准教授 林 恵



人間文化学部
発達教育学科
准教授 末永 統



経営学部
経営学科
准教授 築取 萌



人間文化学部
心理コミュニケーション学科
特任講師 半田 瞳



2024年4月から作新学院大学経営学部において「流通論」「経営学総論B」「サプライチェーンマネジメント」等の講義を担当し、それに関連する研究と教育に取り組んでいます。学生時代は日本で学部から博士(国際学)の学位を取得し、フランスでの留学を通じて多文化的な視点を養いました。また、中国の大学で教員として教鞭を執った経験から、異なる教育環境や文化の中での指導方法を実践し、グローバルな視野で経営や流通の課題にアプローチする力を培ってきました。

本学では、学生が国際的な視点を持ち、変化の激しい社会で柔軟かつ主体的に行動できる人材となることを目指しています。私の専門分野やこれまでの経験を活かし、学生一人ひとりが自分の可能性を発見し、それを実社会で発揮できるよう支援していきたいと考えています。また、多様な文化や価値観に触れる重要性を学生に伝え、グローバル社会で活躍するための土台作りに貢献したいと思います。これからも教員と研究を通じて、本学の学生とともに成長し続けたいと願っています。



9月より着任し、経営学部の教職課程を担当しています。これまで、児童相談所や保健センターで発達相談を担当し、その後、特別支援学校の教員を経て大学に勤務、多様な子どもたちを支える保育者や教育者の養成に携わってきました。障害のある子どもや異文化背景で育つ子どもなど、マイノリティが直面する教育的課題に関する研究を進めています。また、移民の多いドイツの教育現場を調査し、その実践や課題をもとに、多文化化が進む日本の教育に新たな視座をもたらすことを目指しています。

プライベートでは、盲導犬の育成ボランティアに参加し、犬たちと視覚障害のある方々との交流を楽しみながら、地域社会とのつながりを大切にしています。これまでの経験や研究の成果を学生の皆さんと共有し、教育現場で実践可能な力を育むことを目指しています。誰もが安心して学びに参加できる温かい教育環境の実現に向け、多様性を尊重した視点や知見を共に模索していきたいと考えています。



中学高校時代のボランティア経験をきっかけに、自分でも障害のある子どもや家族に何かできることはないか…と思い立ち、障害児教育学科のある大学に入学し、色んな出会いと学びをしました。卒業後は修士課程に進んでから養護学校の教員になりましたが、子どもやご家族に色んな支援ができるハートを持った教員を、病院生のうちから育てられたいいな…とまたしても思い立ち、現職のまま博士課程に在学する二足のわらじで歩みを進めました。

そんな思いを胸に作新学院大に勤められたこと、教職を志す学生たちと出会えたこと、学生たちや先輩方から教え教わる機会が得られたこと、ありがたい限りです。特別支援教育は奥深く、一人ひとりの子どもたちから教わるのがたくさんあります。教科書通りにいかない子どもたちにどう向き合っていくか、学生たちが少しでも妙味を感じられるよう、基礎知識とその応用について、自分の経験を交えて伝えていきたいな、と感じています。



皆様、初めまして。4月より作新学院大学経営学部に着任いたしました築取萌と申します。経営組織論、経営管理論、研究ゼミナールなどを担当しております。看護師としてのキャリアを経て、その後は全国の大規模病院で経営改善プロジェクトに携わるコンサルタントとして活動してまいりました。これらの経験を生かし、病院経営に関する研究に取り組んでいます。

本学での私の目標は、学生たちが実践的なビジネススキルを習得し、自分で考える力を育て、新たな挑戦に積極的に取り組む楽しさを知ることです。そのため、講義やゼミナールでは具体的な社会問題を取り上げ、マネジメントの複雑さやダイナミクスを考える機会を提供するよう努めています。また、学生一人一人が自己の可能性を最大限に発揮できるよう、自己発見と実現に向けた対話を積み重ねていきます。学生たちが将来、社会で活躍するための土台を築くことができるよう、共に学び、成長する学生生活を支援いたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。



4月より人間文化学部に着任いたしました、半田瞳と申します。専門は応用行動分析学、臨床心理学です。公認心理師、臨床心理士の資格を有しております。私はこれまで、鹿沼市総合教育研究所の教育相談員や作新学院大学大学院心理学の非常勤講師として、お子さんの支援や院生の教育等に努めてまいりました。臨床活動では、発達障害のあるお子さんと保護者さまと関わってまいりました。社会的な自立を目標とし、日常生活においてお子さんと保護者さまがどうすれば楽しく、充実して過ごせるかを行動分析学の視点から、支援を行っております。また、研究活動を通して発達障害の支援を中核とし、実証研究に取り組んでおります。

講義やゼミでは、行動分析学を基に理論と実践を繋げていくことで、学生の皆さんが楽しく、新たな学びを得て深めていける一助になれるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

社会で活躍できる

作新学院大学ならではのリベラルアーツ

受け身の学びから主体的学びへ
急速に変化する時代こそ、対応できる人材を育てる

現代社会では未知の領域が広がり、複雑な問題が増えています。これらに対応するためには、多角的な視点と柔軟な思考が求められます。こうした力を育む教育として、リベラルアーツが注目されています。

リベラルアーツとは、知識や情報を得るだけでなく、それを応用するスキルを身につけ、知恵を育む学びを指します。

01 専門知識軸を持つ

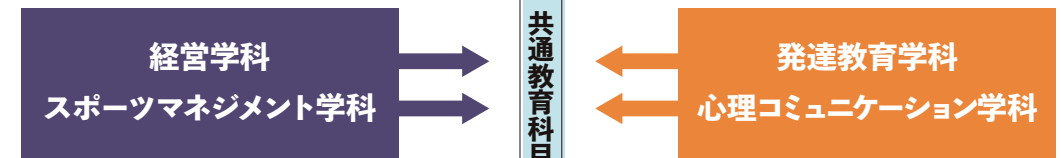
本学では経営学部、人間文化学部、経営学研究科及び心理学研究科を設置し、それぞれの分野で独自のカリキュラムを提供しています。情報の精度が高ければ高いほど、そのものの本質が見えてくるはず。各学科、研究科には、知識はもちろん経験豊かな教師陣が所属し、皆さんの興味のある領域や詳しい分野の専門知識を高められるようサポートします。さらに、各分野のプロフェッショナルを目指すべく資格取得のカリキュラムやインターンシップ(講座や実践)を設けています。ひとつの分野を深く掘り下げるのが、大学での学びの第一歩です。

取得可能な専門資格

- 経営学科 …………… 高等学校教諭一種免許状(商業)
- スポーツマネジメント学科 …… コーチングアシスタント、健康運動実践指導者、健康運動指導士
- 発達教育学科 …………… 小学校教諭一種免許状、特別支援学校教諭一種免許状(知的障害に関する教育の領域)
- 心理コミュニケーション学科 … 公認心理師受験資格

02 専門外の知識軸を持つ

専門外の知識を学ぶことで、視野が広がり、異なる角度から物事を捉えられるようになります。専門知識軸を中心に据えつつ、専門外の知識軸を増やすことで、考え方や物事の捉え方、見方が柔軟になり、より視野の広いアイデアや課題解決方法が生まれるでしょう。多角的視点や柔軟な思考は社会生活においても重要です。本学では、そうした考えのもと、学部を越えて受講できる科目を開講しています。様々な情報を得て現代社会で通用する思考や視点を育てましょう。



※学部・学科問わず、様々な科目を受講することができるので、専門外の知識を身に付けることができます。詳細は履修要項をご参照ください。

03 教養軸を持つ

大学教育の1つとして挙げられる「教養」教育は、専門的および非専門的知識を学ぶだけでは十分とは言えません。社会に出て働くための基本的な教養にプラスして、思考の根本につながる教養軸を持つことも大切です。教養軸を持つということは、自分なりの価値観や判断基準を形成することです。これにより、物事の善悪を見極めたり、取捨選択をする際に自信を持った判断ができるようになります。本学では、大学生に必要なアカデミックスキルの育成をとおして論理的思考、洞察力、理解力、問題解決能力を育成するとともに、様々な講座を開講することで社会に出てから活躍するために必要なスキルの習得を目指します。

Point 01 「ビジョンの明確化」
フランス語・中国語・韓国語
キャリアデザイン(自己啓発)

Point 02 「技術・作法」
理論・表現入門
スタディスキルA
(アカデミックスキル)

Point 03 「就職に有利」
簿記
ITパスポート

協定校へ交換留学に行ってきました！

私費留学窓口は学生課へ
TEL 028-670-3641
交換留学窓口は総務課へ
TEL 028-667-7111

交換留学とは？

交換留学とは、作新学院大学が海外の大学と締結した学生交流協定に基づき、半年から1年以内の期間で締結先大学に留学する制度です。協定校の覚書にもよりますが、留学期間中は在学扱いとなる大学もあり(すべてではありません)、作新学院大学に授業料を納めていれば、留学先大学では授業料を徴収されないなどの制度があります。留学先大学で取得した単位は帰国後、教務課に申請し、認められれば作新学院大学での単位として取り扱うことができます。

- ★イネ POINT 1 世界各国の大学生と会える！**
グローバルな学生達と切磋琢磨し、将来につながるネットワークづくりも可能です。
- ★イネ POINT 2 コミュニケーション力アップ！**
留学先では、様々なバックグラウンドを持った人々と関わります。そうすることで、語学力としてのコミュニケーション力だけではなく、多様化する社会に適用する力を育てることができます。
- ★イネ POINT 3 安心感！**
交換留学は留学が正式に決定するまで、作新学院大学が留学先大学と連絡を取りながら手続きを進めます。相談にも対応する為、個人留学に比べて格段の安心感があります。

韓国 東新大学校への交換留学報告



経営学部 経営学科 3年 八木沢 優来さん



授業の様子 授業の様子 寮の部屋 東新大学の先生と

■ 交換留学をしようと思ったきっかけを教えてください。
交換留学制度は、海外生活文化の多様性への理解を深め、知識を交流するのに素晴らしい機会になると思います。海外生活と語学力の向上だけでなく、自身の視野や考えを広げたいとも思い、決意しました。

■ 東新大学について簡単に説明してください。
全羅南道の羅州市の私立4年制総合大学で学科はバイオ学部やエネルギー工学部、社会文化学部、グローバル学部などがある。沢山の国の留学生を受け入れており中国人やインドネシア人、ウズベキスタン人などの正規留学生もたくさん在籍しています。

■ 東新大学の授業について教えてください。
どのような内容の授業を受講しましたか？
私が所属したクラスは、韓国語学習の特別クラスです。日本人は私のみで、他の留学生は中国人の大学院生たちでした。クラスは1級から4級に分かれており、私は秋学期2級からのスタートでした。中間テストの結果が良かったので冬学期は3級に昇級することができました。



サムギョブサル 一日旅行 韓国のスーパー 友達と釜山旅行

■ 授業は難しかったですか？
慣れるまでは本当に難しかったです。当然、全ての授業が韓国語であるため、集中してヒアリングしなければ、何の説明もできないので、分からない言葉があったらすぐ調べる、または先生に質問するなどすぐに解決するよう心がけました。

■ 東新大学での学生生活について教えてください。
特に印象深かったことは何ですか？
凄く充実して過ごすことができました。オリエンテーションや、初回の授業で友達を作り、週末はバスに乗って近くの都市に観光に行ったり、ショッピングなどを楽しみました。また、10月はたくさんの先生方に食事や旅行に誘っていただき、韓国人の友人も作ることもできたので、放課後にも友人と会うことが増えました。11月には、2日間東新大学の学祭があったので、友人と一緒に向日参加し、大変楽しみました。友人と一緒にの時もすべて会話は韓国語なので、大学生活と交友関係を深めながら、日常的に韓国語を学習することができました。

■ 韓国での学生生活で得たものは何ですか？
今回の留学で、日本では経験できない様々な体験をし成長することができました。特に自身の成長を実感したのは、主体性や積極性などの行動力がさらに身についたことです。日本人が私しかない環境下であったため自主的に行動しなければ友達も作れないし成長するチャンスも訪れない、勉強もすることもできないため、やるしかありませんでした。留学中全ての出来事が自分のレベルアップに繋がって、大変成長することができました。

■ 交換留学制度を利用して良かった点ですか？
大変良かったです。留学は高校卒業後から考えていたのですが、タイミングがありませんでした。何より大学入学時に必ず4年間で卒業すると親と約束していたので、休学して留学に行くという選択肢はありませんでした。大学に交換留学制度があること知り、意欲が湧きました。東新大学への交換留学は、休学扱いにならない制度でありまた授業料は本学に納付することで東新大学への入学金は発生しないこと知り、さらに挑戦したくなりました。授業料は、交換留学先大学によっても異なることでした。親とたくさん話し合ってから、交換留学制度を利用して念願の留学を実現させることができました。すべてに感謝です。ありがとうございました。

CAMPUS NEWS 未来の自分に繋がる大学生活

資格取得をめざす学生への充実したサポート体制

本学では、資格取得をめざす学生へのサポート体制が充実しています。学生が自由に利用できる資格取得支援室には、専門の教員が常駐し、資格取得の相談をしたりアドバイスを受けることができます。さらに、資格取得支援講座を開講し、学生の資格取得を強力にサポートしています。

試験合格者(税理士試験簿記論・日商簿記・全経簿記・ITパスポート)



作新学院大学 資格取得表彰式

教員採用試験対策講座の様子



木村直人特任教授(面接対策講座)

人間力を向上させる学生会活動/能登半島大雨災害への募金活動

学長と学生団体(学生会・学友会)による『令和6年9月能登半島大雨災害義援金(石川県)』の募金活動を学生会館で実施し、昼食後の学生や教職員から多くの温かい言葉と支援が寄せられました。



教員採用試験合格者



- | | | | |
|---------------|----|----------|-----------|
| 経営学部 経営学科 | 4年 | 相原 慶太さん | (福島県・栃木県) |
| 経営学部 経営学科 | 4年 | 須藤 咲紀さん | (福島県・栃木県) |
| 人間文化学部 発達教育学科 | 4年 | 大居 稚奈さん | (福島県) |
| 人間文化学部 発達教育学科 | 4年 | 門井 修弥さん | (福島県) |
| 人間文化学部 発達教育学科 | 4年 | 熊木 翔悟さん | (福島県) |
| 人間文化学部 発達教育学科 | 4年 | 佐藤 大輝さん | (福島県) |
| 人間文化学部 発達教育学科 | 4年 | 佐藤 玲菜さん | (栃木県) |
| 人間文化学部 発達教育学科 | 4年 | 鈴木 海羽さん | (福島県・栃木県) |
| 人間文化学部 発達教育学科 | 4年 | 高根 沢 愛さん | (福島県) |
| 人間文化学部 発達教育学科 | 4年 | 高橋 結菜さん | (福島県) |
| 人間文化学部 発達教育学科 | 4年 | 野上 翔太さん | (福島県) |
| 人間文化学部 発達教育学科 | 4年 | 早川 颯太さん | (新潟県) |
| 人間文化学部 発達教育学科 | 4年 | 山内 俊太郎さん | (福島県) |

高等学校教諭一種免許状(商業)取得者



写真左より
経営学部 経営学科
4年 須藤 咲紀さん
経営学部 経営学科
4年 相原 慶太さん

指定強化部紹介

バドミントン部

2024年度 試合実績

- ◆関東学生バドミントンリーグ
女子2部 男子3部
- ◆全日本学生バドミントン選手権大会
女子団体ベスト16
- ◆全日本総合バドミントン選手権大会
女子ダブルス出場



自転車競技部

学生最上位のクラス1レースにて、見事なチームワークを発揮し、2年生の阿藤来夢選手が2位に入りました。



2位
経営学部 スポーツ科学科
2年 阿藤 来夢選手

全日本学生RCS#7 茅城のまち行田クリテリウムラウンド(12月15日)

陸上競技部

2024年度 試合実績

- ◆2024日本学生陸上競技個人選手権大会
経 スポマネ学科 カラニール マイケル ブラナグ 出場
- ◆第103回関東学生陸上競技対校選手権大会
経 スポマネ学科 カラニール マイケル ブラナグ 男子2部 200m 優勝
経 スポマネ学科 杉本 晴駿 男子2部 200m 第4位
経 スポマネ学科 齋藤 晴 男子2部 400mハードル 第6位
男子2部 4x100mリレー 第5位
男子2部 4x400mリレー 第6位
- ◆第97回関東陸上競技選手権大会
経 スポマネ学科 杉本 晴駿 男子200m 優勝
経 スポマネ学科 カラニール マイケル ブラナグ 男子200m 第5位
経 スポマネ学科 齋藤 晴 男子400mハードル 第6位
男子 4x100mリレー 第2位
- ◆第78回国民スポーツ大会
経 スポマネ学科 カラニール マイケル ブラナグ 出場
経 スポマネ学科 杉本 晴駿 出場

卒業生の佐藤雅選手がバリエーション出場内定報告をしました。

PARIS 2024

日本代表
男子4x400mリレー
6位入賞(2分58秒33)



関東ユル 男子2部 200m 第1位
経営学部 スポーツ科学科
カラニール マイケル ブラナグ 選手

サッカー部

作新学院大学の建学の精神である「作新民(時代の変化にきちんと対応し、自らを常に新しくできる人材を育てること)」を基盤とし、「サッカーを通じて自主・自律する」というVisionを掲げ、「挑戦・献身・辛抱」というMissionを設定し活動しています。



硬式野球部

- ◆2024年度春季リーグ戦
9位(2勝7敗)
- ◆2024年度秋季リーグ戦
7位タイ(3勝6敗)



2024年度(2023年度決定) ベストティーチャー賞

ベストティーチャー賞は、学生による授業評価アンケート結果に基づき、毎年度各学部の教員1名が選出される制度です。



経営学部 スポーツマネジメント学科
講師 武田 作郁

Profile

山形県生まれ。中央大学法学部法律学科卒業後、中央大学保健体育研究所にて勤務。中央大学大学院総合政策研究科博士前期課程を修了し、同志社大学大学院総合政策科学研究科博士後期課程に在籍。2022年、作新学院大学経営学部スポーツマネジメント学科特任講師として入職し、2023年より現職。

私の専門はスポーツ法学です。とくにスポーツの安全に資するルールや安全管理のあり方を巡る法政策を研究対象にしています。

〈授業の概要〉

「スポーツ政策論」をはじめ、周辺領域である「スポーツ産業論」や「スポーツマネジメント論」「企業と法」の授業を担当しています。また、共通教育科目である「憲法入門」「法学入門」など幅広く社会と法にまつわる授業も担当しています。

授業では、小難しい、とっつきにくい法の世界をいかに日常的な感覚に落とし込んで理解できるかに主眼を置いて、その内容を組み立てています。法は本来、可能な限り明確に誤解なく誰でも理解できるように設定されなければなりません。しかし、現実には解釈が必要であり、ここに曖昧さや理解の難しさが露呈します。学生が人生のどこかでぶつかるかもしれない法的な出来事に対しての「準備」をするために、必要な「知識」と「法的なりテラシー」の養成に力を注いでいます。

〈授業の特徴〉

本授業の特長は、以下に示す通りです。

①平易な言葉による講義

法律用語や裁判所の言い回しには、日常的な話し言葉とは違った難解さがあるため、アカデミックさや授業という形式にこだわらない「わかりやすさ」を重視した講義を展開しています。フランクな授業の雰囲気は、学生の積極的な授業参加や理解促進に寄与しています。

②例示や雑談を多分に含めた講義もしくは対話

とはいえ、平易にすればするほど間違っ理解を誘発しやすくなるため、具体的な事例の紹介やスライドによる図示を多用して、理解を助けるよう工夫しています。ゼミナールにおいては、とくにインタラクティブさを重視し、対話による論点抽出と思考の共有を図っています。

③答えのない問い

学生の理解度を確認するために、暗記させるのではなく、自分の言葉で説明するよう課題を提示しています。とくに、答えのない(未だ解決されていない)問いを發して、情報をもとにしながら自由な発想に根ざした回答を求めることで、学生の応用力を鍛えるよう意識しています。



私は応用行動分析学を専門としています。応用行動分析学は教育や心理臨床などの分野で活用されており、私自身は障害のある当事者や家族、関係者に対する支援方法の開発を研究テーマとしています。

〈授業の概要〉

心理学系の授業と特別支援教育系の授業を担当しております。心理学系では「臨床心理学概論」や「障害者・障害児心理学」などの授業を担当しています。障害児者への支援をはじめ、対人援助に関する心理学について、実践例を交えながら講義や演習をしています。特別支援教育では、「発達障害児の心理と教育」や「知的障害児教育法1・2」などの授業を担当しています。発達障害(神経発達症)や知的障害(知的能力障害)のお子さんに対する支援方法や指導方法に関する実践的な知識や技術について、講義や演習をしています。

学生たちはこれまでの経験から「障害者」や「障害児」に対するイメージを無意識にもっていたりします。時には、思い込みや偏見をもっている場合もあります。授業を通して、そういった思い込みや偏見、さらには自分自身と向き合う「きっかけ」になるような授業を心掛けています。また、「障害」というものを通して、人間の可能性や多様性を理解し、自分も他者も大切にできる人間になってもらふことを目指しています。

〈授業の特徴〉

私の授業の特徴は3つあります。

1つ目が多様な授業形態です。見るのが得意な学生もいれば、聞くのが得意な学生もいます。一人ひとりが自分にとって学びやすい方法を選択できるように、口頭で解説するだけでなく、授業を録画して公開したり、映像資料等を使って、多様な学び方ができる環境を用意しています。

2つ目は多様な考え方や価値観の共有です。同じ内容を聞いていても、これまでの経験や知識によって、感じ方はさまざまです。授業を聞いて考えたことや感じたことを、レポートで提出してもらい、後日それをWeb上で共有しています。また、質疑応答や話し合った内容についても共有しています。それらを通して、多様な考え方や価値観に触れられるようにしています。

最後の3つ目は「体験」による学びです。障害者の疑似体験を行ったり、学生の体験を共有する機会を設定します。体験が難しい場合でも、現場での私の経験談や、当事者の方が話している動画などを用意しています。単に知識を覚えるのではなく、実感をもって学べるようにしています。

人間文化学部 発達教育学科

教授 高浜 浩二

Profile

東京都生まれ。明星大学大学院心理学研究科修士課程(心理学)を修了後、筑波大学大学院人間総合科学研究科博士後期課程(心身障害学)を経て、2011年より作新学院大学人間文化学部准教授として入職し、2018年より現職。栃木県発達障害者支援センターの発達障害者支援アドバイザー、栃木県教育委員会発達障害専門チームの講師などを兼務。



研究者紹介

人間文化学部 心理コミュニケーション学科
准教授 木村 雅史

Profile

東北大学文学部人文社会科学卒業、東北大学大学院文学研究科修士課程修了、東北大学大学院文学研究科博士課程修了(文学)。東北大学大学院文学研究科助教等を経て2020年より現職。

専門はコミュニケーション論・自己論です。人々の行為やコミュニケーションを「演技」としてとらえるドラマトウルギー・アプローチの観点からコミュニケーションのメカニズムについて研究しています。ドラマトウルギー・アプローチは、行為する個人を「俳優」、行為の対象となる他者を「観客」、行為が行われる場所を「舞台」、その行為が行われる状況を「場面」、といったように演劇の比喩を用いることで私たちのコミュニケーションを秩序づけている「台本」や「舞台裏」のメカニズムを詳細に描き出す方法です。私たちはコミュニケーションする相手や場所、状況に合わせてキャラ(「役柄」)を変えたり、キャラへの葛藤から「本当の自分」を追求したりといったように、ドラマトウルギー・アプローチの観点から自己の問題を考察することもできます。「コミュカ」や「コミュ障」といった言い方が表すように、私たちはコミュニケーションの問題を個人の能力の問題としてとらえがちですが、そうした視点だけでは問題の解決が難しい場合があります。コミュニケーションの環境全体を描き出すドラマトウルギー・アプローチは、個人の視点に限定されない幅広い知見を提供してくれます。こうした観点から、いじめや高齢者の居場所づくり活動、ソーシャルメディアなどの事例をとらえてコミュニケーションのメカニズムを研究しています。

私は学生時代、今風に言うと、「コミュ障」の人間で、コミュニケーションに対する苦手意識を克服するために研究に足を踏み入れた経緯があります。コミュニケーションについて考えるきっかけは日常の中に沢山転がっていて、失敗エピソードも他者と共有することでコミュニケーションについて考える格好の教材になります。授業では、学生の皆さんの問題意識を引き出せるような教材選びや楽しく議論できる雰囲気づくりに努めています。



木村先生の学生時代



語学研修の仲間

学部時代はドイツ語を専攻していた関係で、3年生の夏休みにドイツのポツダムに語学研修に行きました。日常会話にも歯が立たず落ち込みましたが、寮で同室だったフランス人の方も私と同じような状況で、できない者同士、2人で片言のドイツ語と身振り手振りでおしゃべりしたのは楽しい思い出です。



芋煮会の様子

大学は仙台だったので、秋になると研究室でよく芋煮会をしました。芋煮会は学部生、大学院生、教員、事務職員の方など全員が参加するイベントで、教員への質問攻めや勉強会のアナウンス、研究室対抗野球大会の出場者のリクルートなど、立場にとらわれない人間関係づくりが行われていました。今振り返れば、大学ならではのイベントだったなと思います。大学という場はそこでしかできない体験や機会に満ちています。皆さんも、まずは気軽に大学という環境に身を任せてみましょう。



人間文化学部
発達教育学科
4年

阿部 叶夢さん

KIMURA Seminar 01

木村先生での講義では、主にSNSの問題について深く学習しています。また、現在はSNS問題がとて多く身近にあるからこそ必要な知識を学び、どうすれば問題解決に繋がるかななどの問題に取り組んでいます。卒業論文では、講義とは別にオフィスアワーも充実しており、面談形式で手厚いサポートを受けることができます。分からないことや作業が詰まった時に木村先生からアドバイスを貰いながら学習でき、とても取り組みやすい環境です。

人間文化学部
心理コミュニケーション学科
4年

HO MINH NHUさん

KIMURA Seminar 02

ゼミを選んだ理由は、木村先生が優しく教え方が分かりやすいことに加え、発表後に必ずコメントやアドバイスをいただける点に魅力を感じたからです。そのため、自分のプレゼンテーションのスキルが着実に向上していることを実感しています。

人間文化学部
心理コミュニケーション学科
4年

渡辺 美羽さん

KIMURA Seminar 03

社会学は大学で初めて出会った学問ですが、日々の生活やコミュニケーションの中で感じる些細な疑問に向き合う楽しさに強く惹かれ、二年生の頃に木村先生のもとで社会学の研究をすることを望みました。卒論では主にネット上の炎上や誹謗中傷について研究し、自分なりの答えを導き出すことが出来ました。非常に満足する一年だったと感じています。

2024年度のキャリア・就職支援体制

～本学は学生1人ひとりのキャリアプランを支援します～

教職員が一体となって、学生の就職を全面的にバックアップしています。特にキャリア・就職支援課では3・4年生を対象に個別面談や就職相談を実施し、一人ひとりの学生の適性を踏まえた就職支援をしています。また、就職に向けての企業や各施設などの訪問も随時行っており、学生の雇用機会を広げるための活動にも力を入れています。このように、みなさんの夢の実現や、将来設計のお手伝いを率先して行なっているのがキャリア・就職支援課です。大学生向けの就職支援として、「就職ガイダンス」や「学内企業研究会」の実施、公務員希望の学生のための講座など、数多くの行事を開催しています。1年生で将来のキャリアを考える講座「キャリアデザイン1」を必修で受講し、2年生では少人数制の必修講座「プレインターンシップ」で就活のノウハウを学びます。3年生では、「キャリア・デザイン2(就職ガイダンス)」により、具体的に自分はどういう仕事を選択したいのかを考えます。自分が毎日その仕事でどのように働いているのかのイメージが持てるようになります。

就職ガイダンス(3年次)		会社や仕事を知る 自分の特徴や仕事で大切にしたいことを考える
4月	就職活動の流れと日程	会社が どのような人を 望んでいるかを知る
5月 6月	インターンシップの進め方 自分の特徴を整理する	
7月 8月	業種などの会社の調べ方 インターンシップに参加	会社や仕事と 自分が大切に 思うことが合っ ているかを考える
9月 10月	OB・OGから実際の仕事を聞く 人事担当者から採用する人材像を聞く 4年生内定者の就職活動体験談を聞く	
11月 12月	エントリーシート・履歴書の書き方 企業に接する場合のマナー	応募 試験 面接 ↓ 内定
1月 3月	面接対策・練習 企業担当者との学内勉強会	

01 キャリア形成活動で起きた変化

マイナビより

キャリア形成活動によって身についたと感じるスキル等について聞いたところ、上位に上がったのは「主体性」「課題発見力」「実行力」でした。

キャリア学習によって起こった変化／大学生低学年のキャリア意識調査 (26・27年卒)		※キャリアガイダンス・キャリア教育の授業・インターンシップのいずれかに参加経験がある学生を対象にアンケート	
①主体性が上がった 34.4%	②課題発見力が上がった 33.1%	③実行力が上がった 28.0%	④計画力が上がった 26.8%
⑤自己理解が深まった 23.0%	⑥傾聴力が上がった 19.0%	⑦働きかけ力が上がった 18.1%	
⑧コミュニケーション能力が上がった 15.1%	⑨創造力が上がった 14.8%	⑩柔軟性が上がった 14.0%	
⑪状況把握力が上がった 12.9%	⑫規律性が上がった 12.4%	⑬協調性が上がった 12.4%	⑭発信力が上がった 11.7%
⑮リーダーシップが身に付いた 7.9%	⑯自力効力感が上がった 7.1%	⑰ストレスコントロール力が上がった 7.0%	
⑱自己肯定感が上がった 6.6%	⑲その他 0.2%	⑳キャリア学習によって身についた・上がったと思うものはない 12.8%	

キャリア学習を通して得た知識や経験が活かした場面としてもっとも多かったのは「将来の進路を考えるとき」だが、「履修する授業を選ぶとき」や「研究室・ゼミを選ぶとき」など学業における選択時にも影響していることがわかりました。また、「アルバイト」や「授業や研究／ゼミ活動」の場面で活かしたという学生も一定数見られた。

属性	キャリア学習で学んだ・上がったスキル	キャリア学習を通して得た知識や経験が活かした場面のエピソード
理系男子	課題発見力 創造力 自己理解	教育の勉強をするときにおいて、子どもがどのようなことに興味があるのか、どのような特徴があるのかをインターンシップを通してよく学ぶことができ、それを大学の講義と合わせながらより効果的な学習ができています。
文系男子	課題発見力 傾聴力 自己理解	自分がどのような領域に興味があって、どのような学修をしていけば興味を持つ領域の職業に就けるのかのイメージがつきやすくなり、履修をするにあたって参考になった。
理系男子	働きかけ力 実行力 計画力 柔軟性 状況把握力	キャリア形成の授業での言葉が自分がバイトの関係で悩んでいた時に助けになった。
文系女子	主体性 実行力 計画力 傾聴力 柔軟性	普段の友人との会話ですぐ反論するのではなく、一旦相手の意見を聞くようになった。
文系女子	主体性 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性 コミュニケーション能力	バイト先で目上のお客さんと会話する時の礼儀や傾聴力を身につけた。

キャリア学習によって向上した能力が、実際にどのように役立ったか (26・27年卒)

02 大学生でどんなことを頑張ったか「ガクチカ」を考える!!

就活でガクチカを聞かれる理由とは?⇒ガクチカとは「**学生時代に力を入れたこと**」の略です。就活ではほとんどの企業で聞かれる質問ですから、学生の間でも「ガクチカ」で定着しているでしょう。ガクチカという質問には、**学生が自由意思で何に取り組み、どのくらい頑張れたか?という「自発性」を知ろうとする意図があります。**現代の社会人には、従来の考え方に捕らわれない、**新しい価値を生み出す創造性が求められている**からです。この時代では、各自のモチベーションの源泉は何か、どんな価値観の下、どんな目的を持って行動するのが重視されるでしょう。「ガクチカがない」という学生は、「輝かしい結果がなければいけない」「ほかの人と同じような内容では評価されない」などという先入観がきつとあるはず。エピソードの華やかさではなく、**ガクチカのプロセスに「人となりや特徴が表れているかどうか」**です。ですから、結果が出なかったり、失敗に終わったりした経験や、特別な経験である必要もありません。そう考えれば、誰にでも「力を入れた」と思えることがいくつか見つかるはず。

03 就職最前線 ～私の学生生活の至るところに散りばめられた、未来に繋がる気づきの瞬間～



就職先 ▶ 株式会社 **ダイセキ**
経営学部 スポーツマネジメント学科 4年 高根 健輔さん

就職活動を始めたのは3年生の夏終わり頃です。最初はマイナビやリクナビが行っている大規模の合同説明会に参加することや、キャリア・就職支援課の担当職員の方と将来のビジョンなどを話し合うところから徐々に始めていきました。就職先の選定は興味や湧くところ、実際に企業に伺った時の雰囲気や、印象を大切にしました。色々な業界を見る機会が今までなかったため就職活動を機に全く興味のなかった業界も検討、選定しました。企業を選ぶ上で重視した部分は、**今後も社会に必要とされる企業、興味のある企業であるか**です。私は影から社会を支えたいという思いがあります。社会人はお金を稼ぐために働きますがそんな中でも、**楽しいと感じたりやりがいを持ってると継続できる**と思い、重視しました。学生時代のガクチカは、**サッカー部に所属していたこと**です。3年次、関東大学サッカーリーグ2部のベンチ入りをし、4年次にはサッカー部全体の副キャプテン、2軍チームのキャプテンを務めました。人の上に立ち決断する、総括して声掛けをすることを主に意識してきました。人には同じ言葉でも様々な伝わり方をします。自身の想いが正しく伝わるよう、**パーソナルに話す機会を多く設け、意見を聞き、チーム全員が同じ方向性で躍進できるよう工夫**してきました。キャリア・就職支援課では月に一回は面談をしていました。どのような企業が自身に合うかを相談できる担当職員の方は大きな存在でした。今までサッカー一筋だったので、就職できるか本当に不安でしたが、常に明るくポジティブに面談をしてくださったおかげで、就職活動を楽しんで行きました。これから就職活動をする方へのアドバイスとして、**様々な業界、企業を比較検討**してください。全く興味のなかった分野でも、新しい発見があるものです。悩むことも多々ありますが、**たくさん悩んで決めた企業は、後悔が残りにません。**様々な企業を見られる機会は今後多くありません。少しでも楽しんで行動してみてください。

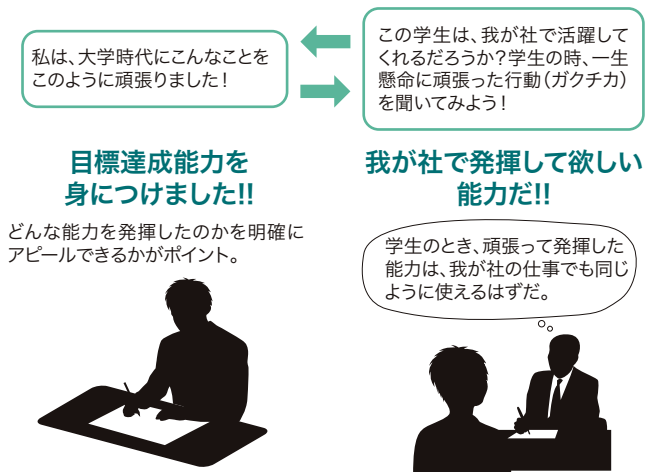


就職先 ▶ 大田原信用金庫
人間文化学部 心理コミュニケーション学科 4年 菅野 美優花さん

就職活動は3月の半ばに企業説明会へ参加したのが始まりです。キャリアデザイン2の授業でオンライン説明会を受け、興味を持った企業の企業説明会に応募したのがきっかけです。学生時代のガクチカは、**人との関わりを積極的に作り、コミュニケーション力を高めること**に努めました。昔は話すことが得意ではなかったため、接客のアルバイトや友人のいないサークルに参加し、自分から機会を作って克服しました。その結果、自然な会話ができるようになり、相手の気持ちに配慮する余裕も持てるようになりました。キャリア・就職支援課では、ESの内容と一緒に考えていただいたり、適性に合った企業を紹介していただいたりしました。面接前には練習にも付き合っていたり、職員の方が親身に相談に乗り、**職探しを手伝ってくださったおかげで、その期待に応えたいと思い頑張ることができました。**また、たまに送られてくるメールで求人票や企業のパンフレットを紹介していただき、とても助かりました。この支えが大きな励みとなりました。**社会人になったら、必要な資格取得に取り組みたい**と考えています。特にFP資格の勉強を進め、業務に関する知識を深めることに力を入れたいと思います。また、実務を通して経験を積み、スキルアップに努めたいです。これから就職活動をする方へのアドバイスとして、就職活動では、**キャリアデザイン2の授業を活用し、さまざまな職種や業界の話**を聞いてみる**ことが大切**です。幅広い視点を持つことで、自分に合った職種が見つかるかもしれません。また、興味を持った企業や職種であれば、企業研究も楽しく進められるはず。困ったり迷ったりしたときには、キャリア・就職支援課の職員の方に相談することをおすすめします。親身にサポートしてくれると思うので、一人で悩まずに頼ってみてください。

04 「内定をもらう学生」と「内定をもらいにくい学生」の違い ～考え方や行動力の違いが結果を左右する～

就職試験では「大学生活で頑張ったことは何か」を、質問される場面が必ずあります。それは、企業の採用担当者が、大学生活で頑張ったことを通して入社後、その会社でどのくらい活躍できるか判断材料とするからです。



内定をもらえる学生	内定をもらえない学生
3年次 2月 こんな会社で仕事がしたい! 早めの行動!!	3年次 2月 就活かあ。まだいいか。
3月 この3社にESを送ろう!	3月 1社説明会に行ったけど... まだいいや。
4年次 4月 2社の試験が決定	4年次 4月 多分落ちたな。
5月 よし! 次は面接だ!!	5月 6月 きつと何とかなるでしょ。
6月 内定しました!	7月 8月 どうしよう。どこも決まらない...

・モチベーションが安定している。
・キャリア支援課にESや履歴書の書き方を指導してもらおう。
・就活における自身の軸にブレない。

・気持ち不安定。
・キャリア支援課に就職の相談をしない。
・ESや履歴書が雑で就活の軸が不明確。

05 就職サポート体制

インターンシップ	公務員を目指す人への就職支援	学内ガイダンス
学生のインターンシップへの関心は年々高まっています。2023年度よりインターンシップの定義が変更され、企業は一定の基準を満たしたインターンシップで得た学生の情報を広報活動や採用選考活動に使用できるようになりました。自己分析、エントリーシート、面接に関するさまざまな支援をしています。	希望企業の入社試験や各種公務員の採用試験など、試験の内容、日程など受験に際しての注意点などのアドバイスを随時受けることができます。また専門講師による最新の動向を反映した、公務員養成講座を開講しています。	大学では、3年生対象に年間約15回の就職ガイダンスを実施する等、就職活動の基礎から実践まで、充実した就職プログラムを提供しています。
Uターン・Iターン就職のサポート	障がいや持病のある学生に対するキャリア支援	サポート
地方への就職を目指す際に考えておくべきことや、就職活動の進め方等を支援しています。	学内所属やキャンパスライフ支援室と積極的に連携し、障がいや持病のある学生のキャリア形成につながる様々な情報や行事を提供しています。	相談時間 平日 8:45 ~ 16:55 土曜 ※事前に下記までご連絡ください。 キャリア・就職支援課 TEL: 028-670-3645 FAX: 028-670-3646 Eメール: syuusyok@sakushin-u.ac.jp ※日曜・祝祭日は利用できません。また、夏休み等、特別期間については別に時間を定めます。 キャリア・就職支援課 Webはコチラ▶

後援会事務局からのお知らせ

令和7年4月から多子世帯の授業料・入学金等無償化の所得制限がなくなります
※多子世帯:扶養される子どもが3人以上いる世帯



大学等の無償化 子ども3人以上の世帯への支援を拡充します! 文部科学省

開始時期	令和7年度～(入学生・在学生) ※令和6年度以前から在学している方も対象となります。	申込手続	令和7年度 入学後 各学校で
支援対象	子ども3人以上の世帯	所得制限	所得制限 なし
減額支援	本学は授業料65万・入学金26万 (私立大学4年制の場合65万円×4年+26万円が減額支援) ※令和7年度からの多子世帯への支援は、授業料等の減額支援のみです。現金支給ではなく、各学校の授業料等が減額されます。	学業要件	学修意欲があれば採用 進学後に満たすべき要件▶▶▶

子ども3人以上の世帯が対象

第3子(中学生) 第2子(高校生) 第1子(大学生)

- ・3人同時に扶養(親族から経済的援助を受けること)されている間は、**第1子から支援対象**になります。
- ・第1子が就職を機に経済的に自立するなど扶養から外れた場合は支援対象外となります。

要件を満たした大学・短大・高専・専門学校が対象

- ・一定の要件を満たした(大学・短期大学・高等専門学校(4・5年)・専門学校)が対象となります。
- ・対象外の学校に入学した場合は支援を受けることができません。

令和7年度によくある質問は▶▶▶

支援の対象となる学校▶▶▶

学生をサポート!! 本学で申請できる奨学金制度について

本学では、大学で学びたいという強い意志があるにもかかわらず、経済的な理由で学業継続が困難な学生をサポートするため、様々な奨学金制度を扱っています。ここに記載されていない奨学金もありますので、奨学金が必要となった場合はお気軽に学生課までお問い合わせください。

Check! 春の希望者説明会 令和7年4月9日(水)・10日(木)・11日(金)
12:10~13:00 保護者参加可

日程等詳細は学内掲示板や学内情報サービス(TECMIN)で案内しています。
申請資格等の詳細は、QRコードのHP等から確認してください。

《日本学生支援機構奨学金》

①給付・授業料減免新制度
※住民税非課税世帯とそれに準ずる世帯・多子世帯が対象
新給付制度紹介HP 進学資金シミュレーター

②貸与奨学金制度
※無利子の第1種と有利子の第2種があり卒業後には返還が必要
貸与奨学金紹介HP 貸与・返還シミュレーション

学生課には、日本学生支援機構奨学金以外にも市町村や財団法人等による修学支援等の奨学金案内が届いています。奨学金が必要となった場合は、お気軽に学生課までお問い合わせください。

奨学金に関するお問い合わせ先
学生課
TEL 028-670-3641 gakusei@sakushin-u.ac.jp

作新学院大学へのご支援について

01 寄付金募集についてのご案内

本学における教育環境の充実とキャンパス施設設備の整備、課外活動、社会貢献活動支援などの学生生活の向上を図るため、個人および法人など幅広く寄付金を募ります。

- 寄付の内容/個人:3千円以上・法人:3万円以上
- 寄付のお申し込み方法/指定の振込用紙に必要事項をご記入の上、金融機関からお振り込みください。

02 学校法人に寄付をした場合の税制優遇について

個人が学校法人に対して寄付をした場合には、所得税の計算において優遇措置が認められており、確定申告を行うことによって、一定額の控除を受けることができます。寄付金控除に係る制度は「所得控除」と「税額控除」の2種類があり、寄付者の所得額や寄付金額によって控除できる金額が異なります。

寄付金控除のイメージ

所得控除

個人の所得税額の計算において、年間の所得金額から寄付金額-2,000円を控除。

各寄付者の所得に応じた税率を寄付金額に乗じて、控除額を決定。

$$\left(\text{所得金額} - \begin{matrix} \text{諸控除} \\ \text{寄付金} - 2,000\text{円} \end{matrix} \right) \times \begin{matrix} \text{税率} \\ 20\% \end{matrix} = \begin{matrix} \text{所得税額} \\ \text{寄付金控除} \end{matrix}$$

(10,000円-2,000円)×20%=1,600円

税額控除

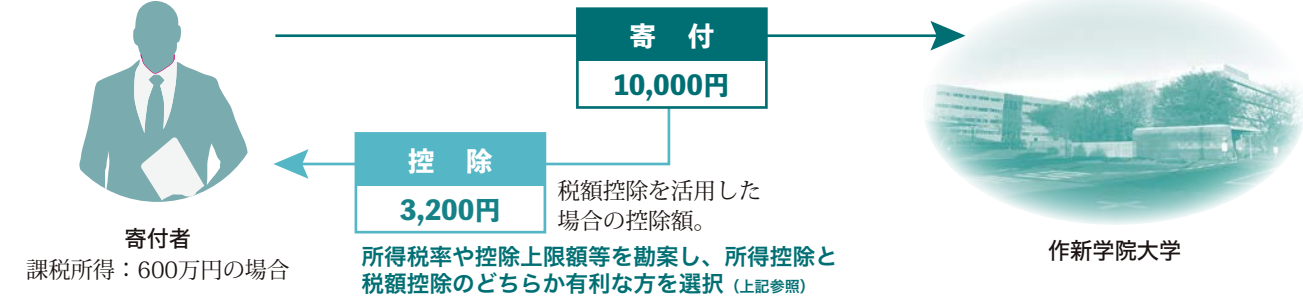
個人の所得税額から(寄付金額-2,000円)×40%を直接控除。

各寄付者の所得税率に関係なく、所得税額から直接寄付金額の約4割を控除。

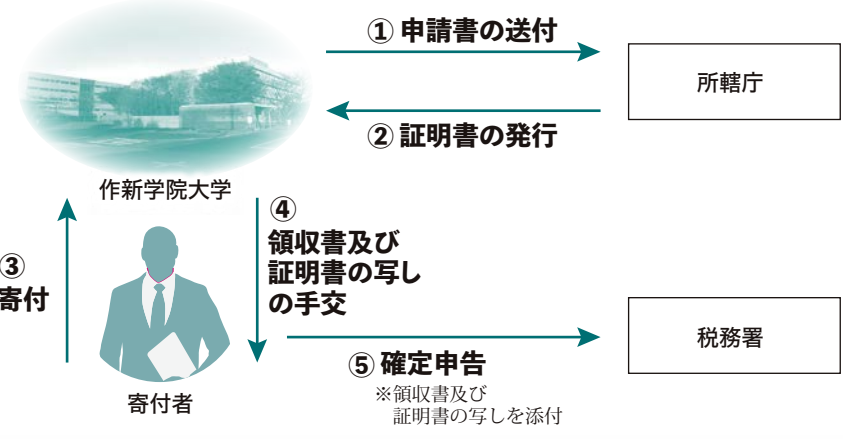
$$\left(\text{所得金額} - \begin{matrix} \text{諸控除} \end{matrix} \right) \times \begin{matrix} \text{税率} \end{matrix} = \begin{matrix} \text{所得税額} \\ \text{(寄付金-2,000円)} \\ \times 40\% \end{matrix}$$

(10,000円-2,000円)×40%=3,200円

※所得税額の計算式(年間の所得金額-各種控除額(寄付金控除含む))×所得税率=所得税額



寄付金控除の流れ(イメージ)
本学に対して寄付をいただいた場合に、寄付金控除を受けるための流れは以下のとおりです。



Information
法人寄付金についてのご相談窓口
法人事務局
028-670-3814

Information
本学では保護者様のお悩み・ご相談事を随時受付しております。
ご相談窓口
028-667-7111
後援会担当まで

ご支援をいただいた皆様へ
本学に対し、皆様よりご寄付を賜り、誠にありがとうございます。皆様の温かいご支援により、学生たちの学びの環境を一層充実させることができていることに、心より感謝申し上げます。皆様からのご寄付は、教育設備の充実や学術研究の推進、さらには学生支援活動の充実に役立てられています。これからも、学生たちが安心して学び、成長できる環境を整えてまいりますので、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。